

Maz-motte

マズモッテ



公益社団法人名古屋青年会議所2017年度（第67年度）スローガン

未来は勇者のものである

～新たな価値観を創造しNAGOYAから世界へ～

対談企画 SPECIAL TALK 理事長、マニラJC理事長と語る

参加者 募集中!! 参加費無料

参加資格：名古屋市内又は名古屋市近郊に在住在学する新1年生～新6年生の男女
詳しいお申込み方法は裏面をご覧下さい。

参加イベント：
 着ぐるみ力士とみんなであそぼう!
 わんぱく手形イベント
 わんぱく紙相撲体験!
 ちゃんこ鍋をいただきます!

決勝大会では西別院 Oneコイン朝市も同時開催!!

第34回 名古屋大会 市長杯

わんぱく相撲

予選「区長賞」 5/13(土) 14(日) 各区会場にて
 決勝「市長杯」 5/28(日) 浄土真宗本願寺派 本願寺名古屋別院(西別院)

【主催】公益社団法人名古屋青年会議所 【後援】名古屋市長会、名古屋市教育委員会、名古屋市立小中学校長会、名古屋市小中学校PTA協議会、愛知県相撲連盟、刈谷市相撲連盟、中日新聞社、浄土真宗本願寺派本願寺名古屋別院(西別院)、真宗大谷派名古屋別院(東別院)、日本ボイスカウト愛知連盟、名古屋子供会連合会、たかはな大木戸ひなた市実行委員会(順不同)
 【開催協力】愛知県看護連盟

【お問合せ・お申込み先】
公益社団法人 名古屋青年会議所「第34回わんぱく相撲係」
 わんぱく相撲の大会概要は [わんぱく相撲名古屋オフィシャルページ](#) をチェック!!



マズモッテ定期送付ご希望の方へ

携帯、スマートフォン、パソコンからお申し込み

- QRコードを読み取ってください→
- 「マズモッテ定期送付依頼フォーム」から必要事項をご入力ください。



※QRコードでなく、入力の際は下記アドレスをご入力ください。
https://www.nagoyajc.or.jp/67nendo/about/mazmotte/main_form.php
 ※ご記入いただいた個人情報は、個人情報保護法に従い取り扱います。
 ※公益社団法人名古屋青年会議所に関する情報提供以外の目的では利用いたしません。
 ※アクセスにはご契約の通信料がかかります

名古屋の魅力を発信する情報をゲット!

名古屋青年会議所のホームページやSNSでも情報を発信中!

公式Facebook



公式Instagram



公式LINE



ラインスタンプもあるから使ってネ。



スタンプのタイトル:
 名古屋JCコアラ (JC用語編)
 ©3iC'n Style + JCI Nagoya

編集後記

今回の「Maz-motte」では、様々な会員に取材をさせていただき、取材をする中で、伝わってくる熱意や想いを感じ取り、その気持ちを文章として表現する作業は大変なものでしたが、それだけに私自身も多くの学びを得ることができました。そして、真剣に物事に取り組む方々は、一言一言、一言一言と言葉を交わしながら、表情は喜々として輝きを放っていたのが、とても印象的でした。

2月例会を担当された委員会の皆さんは、毎日、相当な時間を使って、一つの目標に向けて取り組まれていましたが、時間を共有する中で、お互いに意見をぶつけ合い、切磋琢磨を繰り返すことで自己成長を実感され、その結果として得られたと語られる絆は、とても強いものであるように私にも感じられました。

また、わんぱく相撲という歴史ある名古屋青年会議所の事業を担う運

当会議の皆さんは、毎年行っているこの事業のあり方と向き合い、若者らしく新しい手法を取り入れることで、伝統を重んじながらも新たな価値観をそこに表現しようとしていました。

そして、今回は国際的な分野に関する取り組みについても取り上げさせていただきました。世界の中で名古屋や名古屋青年会議所がどのような立ち位置にいるのか、また、今後、どのような活動が求められているのかについて、僅かではありますがお伝えできたのではないかと思います。

この「Maz-motte」をご覧いただき、より明るい豊かな社会の実現に向けて、一生懸命に取り組む姿から、名古屋青年会議所の会員一人ひとりの熱い想いを感じていただければ幸いです。

「マズモッテ編集部」

編集者

公益社団法人名古屋青年会議所
 広報委員会

編集長	保田隼希	杉崎樹	篠崎ひとみ
副編集長	梶野晴基	矢野大輔	渡辺健介
編集委員	相川悟郎	岩崎陽介	岩田孝之
	岩崎直樹	大西孝義	大橋飛鳥
	加藤文博	小早川洋介	近藤優介
	柴田達也	杉山裕一	鈴木貴則
	高田智仁	田之上慶彦	恒川大輔
	中島康雄	成瀬善一	野村茂彦
	早川祐希	早野誠	東勝彦
	猿島太地	村瀬雄介	森光賢
			横井佑典

次代に伝えたい！ 名古屋食文化遺産

取材・撮影・文 永谷正樹

「第1回」きしめん

今や名古屋観光の目玉となっている「名古屋めし」。その反面、地元の人にはあまり食べなくなっただという話も耳にします。まず私たちが名古屋の食文化を学び、「名古屋めし」を食べることで郷土に思いを寄せ、ひいては子供世代にその素晴らしさを伝えていきたいと思います。

きしめんは麺類食堂で食べるべし！

地元の人が当たり前だと思っていることが、実は全国的には非常に珍しい習慣や文化だった、ということは多々あります。特に、名古屋の食は、全国でも類い希な食文化であると言っても過言ではありません。

この連載「次代に伝えたい！名古屋食文化遺産」は、名古屋で長年に亘って培われた食文化の素晴らしさを再認識すると共に、後世に伝えていくことを目的に今回からスタートしました。

記念すべき第1回目のテーマは、「きしめん」です。新幹線から名古屋駅のホームに降り立つと、ふわっと香るダシの匂いに鼻腔がくわえる店もあります。

きしめんといえば平打ちの麺が特徴ですが、きしめんの真骨頂はつゆにあると思われています。うどんに使うダシは関東は鰹、関西はさらに昆布をくわえます。讃岐ではいりこ（煮干し）を使います。一方、名古屋ではムロアジでダシを取ります。そこにさば節や宗太鰹をくわえる店もあります。

ムロアジのダシは鰹や昆布のような上品さではなく、例えるならば、野趣溢れる味。このダシにコクのあるたまり醤油を合わせたのがかけきしめんやあんかけきしめんの「赤つゆ」です。一方、天ぷらや玉子とじ、志の田きしめんなどは白醤油を使った「白つゆ」になります。ダシは同じはずなのに、白つゆは一転して上品な味わいになるから不思議です。ムロアジのダシや赤と白のつゆは、日本広しといえども名古屋だけのオリジナルなのです。

「白つゆを使うのは、天ぷらや野菜などの具材に色が染まらない上に具材の味も引き立てますからね。お客さんのなかには志の田でも赤つゆで食べたいとか、逆に白つゆでかけを作って欲しいというリクエストもあります」（桜井さん）

お客さんのリクエストから生まれた新タイプのきしめん

味噌かつや小倉トーストも、もともとお客さんの要望に応じて作ったのが始まりです。いずれも店の看板メニューとなり、さらには名古屋の食文化を語る上で欠かせないものになりました。お客さんのリクエストから生まれた、新しいタイプのきしめんもあります。

それが中村区則武にある「麺類・食事処 朝日屋」の「焼き太きしめん」です。



①



④

① かけきしめん
「かけきしめん」580円。ダシはムロアジに宗太鰹をプラス。ムロアジ特有のくせが和らいでいる。ネギと大根おろしの薬味も付く。

② 志の田きしめん
「志の田きしめん」660円。白つゆに刻んだネギや揚げ、カマボコなどが入る。関東や関西にはない名古屋エリア限定メニューだ。

③ 桜井さん
三代目店主の桜井太郎さん。職人歴、約30年のベテランだ。



②



③



⑤



④ 鉄板焼き太きしめん
「鉄板焼き太きしめん」(720円)。豚肉や玉ネギ、ピーマンなど具材もたっぷり。ピリ辛なのでご飯はもちろん、お酒にも合う。
⑤ 堀場さん
店主の堀場剛さんと奥様の美香さん(右)、母親の敬子さん(左)の3人で店を切り盛りしている。

くすぐられます。故郷へ帰ってきたことを実感する瞬間でもありません。巷では「名古屋駅のホームで食べるきしめんがいちばん旨い」という説(?)もありませんが、私がオスヌメしたいのは「麺類食堂」です。きしめんのみならず、うどんやそばなどの麺類や丼ものが中心の、昔ながらの店です。市内のどのまちでも見かけますが、皆様は暖簾をくぐったことがありますか？

東区飯田町にある「川井屋」もその一つ。創業は1921(大正10)年。三代目店主の桜井太郎さんは23歳のときから店に立ち、今年で29年目。先代から受け継いだ味を守り続けています。

今回、私が「川井屋」を選んだのは、味もさることながら、ビジュアルがいかに名古屋らしいきしめんだったからです。きしめんの具材は、煮揚げとかまぼこ、ほうれん草などの青菜、そして花がとおと昔から決まっています。なかでもかまぼこは縁が朱色の「名古屋かまぼこ」を使っています。赤茶色のつゆにかまぼこの朱色とほうれん草の緑が映えていて、名古屋でいちばんフォトジェニックなきしめんだと私は思っています。

きしめんの真骨頂はつゆにあり

「川井屋」では、きしめんやうどん、味噌煮込みうどん、そばは全て手打ち。4種類の麺を毎日仕込むのは大変な作業だと思えます。「川井屋」さんに限らず、麺類食堂のきしめんはもちりとした食感が特徴です。これは生地に含まれる塩分の濃度や打ち上げた生地の熟成期間が関係しているのですが、マニアックな話になるので割愛します。

「醤油で味付けするのは当たり前前すぎると思っ、ソースやカレー、味噌など考えられる調味料は全て試しました。しかし、どれも納得がいく味ではありませんでした」と、話すのは店主の堀場剛さん。

ある日、家族で焼肉を食べたときのこと。肉を食べ終わった後の締めいきしめんをホットプレートに入れたところ、とても美味しく食べられたそうです。「焼き太きしめん」はここからヒントを得たのです。

堀場家では、焼肉は店で出す焼肉定食用に、先代が考案したタレを使っていました。醤油にすり下ろしたニンニクや唐辛子などを加えた、パンチのある味を吸ったきしめんは美味しいに決まっています。名古屋の喫茶店にある「イタリアンスパゲティ」のように熱々の鉄板で食します。しかも溶き卵も流し入れてあるので、絡めて食べるとマイルドな味わいになります。

昨年3月、私はあるテレビ番組で「焼き太きしめん」を紹介しました。反響は凄まじく、全国から多くのお客さんが訪れたそうです。また、「川井屋」もお客さんの7割以上が、きしめんを注文するそうです。きしめんの人気が高まっていることを感じました。皆様も、きしめんの美味しさを再認識すべく、お店に足を運んでみてはいかがでしょうか？

店 DATA

川井屋

住：名古屋市東区飯田町 31
Tel: 052 - 931 - 0474
営：11:00 ~ 14:00
17:00 ~ 20:00(19:20L.O.)
休：日、祝

朝日屋

住：名古屋市中村区則武 1-18-16
Tel: 052 - 451 - 5930
営：11:00 ~ 15:00(14:50L.O.)
17:00 ~ 21:00(20:30L.O.)
休：日



永谷正樹
ながやまさき

Profile

'69年愛知県生まれ。名古屋の食をテーマに「おとなの週末」(講談社)や「STORY」,「女性自身」(光文社)などの全国誌に記事と写真を提供するフードライター兼カメラマン。講演やテレビ出演のオファーも多数。

マニラJCC×名古屋JCC 姉妹交流編

① 青年会議所の姉妹交流について

青年会議所は、設立より国境を超えた民間外交を行なってきました。

しかし、その道は平坦なものではありませんでした。そもそも名古屋青年会議所を含む7青年会議所(チャーターLOM)が、日本青年会議所を設立したのは1951年。終戦間もない時代であり、当時の日本は第二次世界大戦の敗戦国として、他国と国交を結ぶことすらできない政治的な制約を受けていました。そのような困難な時代であったにもかかわらず、日本青年会議所は創立初年度に国際組織であるJCIへ正式加盟を果たしました。

この事実は、JCI(=Junior Chamber International、国際青年会議所)という組織のあり方を特徴づけています。ただし、日本青年会議所のJCIへ正式加盟には、マニラJCCの存在がなくてはなりません。

1951年5月、カナダ・モントリオールで開催された第6回JCI世界会議の閉会式において、時のJCI会頭であるマニラJCCのラモン・デル・ロザリオ氏が、「JCIには国境も民族もない。それは、全世界の青年のものである。その誇りにおいて、我々は今ここに、かつての敵国日本のJCI代表団を心からなる歓迎をもて迎えようとする。」という演説をされました。つまり、マニラJCCの支持と、この演説による加盟国の共感を得て、ようやく日本青年会議所はJCIへの正式な加盟が認められたのです。

グローバル化が進み、アジアにおける国家の立ち位置が急激に変化する中、現在を生きる私たちは、日本人として、また名古屋の青年経済人として、何を成し遂げるべきなのでしょう。

本年度の名古屋青年会議所の姉妹交流取材の中で見えてくる、世界の中の日本、そしてシブ能力を発揮する場を与えてくれました。

公益社団法人名古屋青年会議所とは、1978年2月20日に姉妹交流が始まっており、それ以来、アジア会議であるASPAACや世界会議での交流会、そして民間外交事業等の活動を通して、お互いに刺激を与えています。

その中でも印象的なできごととは、1953年4月13日、日本JCCの代表団26人がフィリピン・ルソン島マニラ郊外にあるモンテルパ戦犯収容所を訪れたことです。そこには、終戦から7年余が経ってなお、戦犯とされた108人の日本人が収容されていました。

前年、JCI国際会議が東京で開催され、日本・フィリピン両国の友好が深められ、翌年に開催されるJCIマニラ会議をより有意義なものにしようと、日本JCCがモンテルパ収容所に収容されている日本人の慰問を提案し、フィリピンJCCがこれを快く承諾した結果、この収容所の慰問が実現したのである。名古屋JCCからも、数名がこの代表団に加わりました。彼らは、収容されている日本人に向けて、彼らの故郷の家族の声や、近くを流れる川のせせらぎの音を収めて届けました。うわべだけの奉仕ではなく、人の心に寄り添って、その人たちが今求めているものは何かを考えて届ける。この人の心の痛みを知り、果敢な行動力で成し遂げた名古屋JCCの「快拳」は、メディアでも大きく報道され国民の共感と感動を呼びました。

④ マニラJCCの今年の取り組み

ミッシェル・ガン君:

昨年は、姉妹JCCとの関係性の強化に努めました。日本の他の青年会議所にも姉妹JCCがありますので、活動のサポートをさせていただきました。

他国の姉妹JCCへの支援としては、乳児院への寄付活動や、クアラルンプールに図書館を設立する運動への協力等をさせていただきました。その

② 名古屋青年会議所 賀詞交歓会での交流

名古屋についてお届けします。

2017年1月10日、名古屋青年会議所の賀詞交歓会に合わせて、マニラJCCの方が日本を訪れました。訪問されたのは、2017年度 委員長のミッシェル・ガン君と2016年度 委員長のローウェル君とメンバーのケビン君。それぞれの立場から見た名古屋青年会議所について語っていただきました。

Q: 日本の賀詞交歓会の印象はどうでしたか。ミッシェル・ガン君:

名古屋青年会議所の賀詞交歓会に参加をさせていただき、肅々とした雰囲気の中で進行や、大和理事長の素晴らしいスピーチに大変感動いたしました。そして、式を進行する会員、参加していた会員の皆さんが一丸となっている姿に、私は尊敬の念を感じ得ませんでした。マニラを含め、他国の式典ではダンスをしたり、歌を披露したりするパーティ形式もありますが、名古屋青年会議所の賀詞交歓会は、どの地域の青年会議所よりも格式高く、敬意を重んじた賀詞交歓会だと感じました。

ローウェル君:

これまで様々な賀詞交歓会に参加してきましたが、名古屋青年会議所という組織の成り立ちに驚きました。全員でゴールを共有し、全員が立ち位置を良く理解している。そして、目標に向けて忠実に突き進んでいるのが分かりました。このような賀詞交歓会に参加したのは初めてでした。この経験を自分たちのコミュニティに持ち帰りたいと思います。

キャビン君:

メンバーとして参加をさせていただきましたが、見ず知らずの私たちに、誰もが「こんにちは」と挨拶をしてくれました。言葉数は少なくても、コミュニケーションをとることができ、大変嬉しかったです。役職を超えて、全てのメンバーが尊敬

他にも、将来インターナショナルに活動できるリーダーの育成や、日本の青年会議所にも参加をさせていただいたリミットレスアジアの開催、そして会員拡大にも力を入れて活動をいたしました。今年は、昨年の運動を受けて計画の目的強化を図ること、名古屋青年会議所との関係性を強いものにしていくことに注力しています。

⑤ リミットレスアジアへ 名古屋青年会議所会員の初参加

林宏和委員長率いるグローバルネットワーク推進委員会のメンバーが、フィリピンのマニラを訪問し、韓国・香港・台湾・マレーシアをはじめとする諸外国のJCCメンバーと共に、マニラJCCの活動の一環であるリミットレスアジア(リーダー育成ミッション)に参加しました。事業に参加したグローバルネットワーク推進委員会の寺嶋聡副委員長は、事業の様子について伺いました。

Q: リミットレスアジアとは、どのような事業なのか教えてください。寺嶋副委員長:

「リミットレスアジアには、アジア諸国のJCCメンバーが参加をいたしました。私たち名古屋青年会議所のメンバーも参加をさせていただきましたが、このリミットレスアジアというのはリーダー育成を目的として、参加している他国のJCCメンバーとランダムにバディ(2人組で常に行動を共にすること)を組み国内外も言葉も越えて、決められた目的(ミッション)を達成していく中で、バディとの支え合いの大切さを学ぶというプログラムです。」

Q: ミッションで印象に残っていることは何ですか。寺嶋副委員長:

言葉が通じないので、拙い英語やボディラングージで意思を伝えるということに苦労しましたが、ミッションがクリア(成功)になった時の達成感と、そこに至るまでに気持ちを通じ合えたという感

敬し合うという姿に感銘を受けました。また、名古屋青年会議所の賀詞交歓会は格式が高く、役割を持つメンバーがプロフェッショナルな働きをされており、私も尊敬の念を抱きました。

大和理事長の挨拶:

本日は、マニラJCCのみなさまにお会いできて光栄です。マニラJCCとは、1978年に姉妹締結をしました。両青年会議所の交流は、今年で39年目を迎えます。永きに亘って先輩方が築いてきた友情をこれからも育み、交流を続ける中で、お互いの関係をさらに強いものにしていくように努めたいと思っております。今回はマニラJCCの皆様が名古屋へお越しいただきましたが、今度は私がマニラを訪問させていただきますことをお約束します。

③ マニラJCCについて

JCIは、アメリカのセントルイスで、1910年に結成されたダンスクラブを起源としています。ここで、「コミュニティとは社会問題に青年が関係し、青年がそれらを巻き込んで」というJCCの理念が生まれました。アメリカの中で広まっていたJCC運動は、1940年代に入り、戦争による国際協力の必要性から、中南米地域での国際的な青年会議所グループの形成に至ります。そして、1944年12月11日にメキシコシティで開かれたインター・アメリカン会議でJCIが誕生しました。

マニラJCCは、1947年12月20日に結成された、アジアで最初に生まれたJCCです。このマニラJCCの最初のプロジェクトは、マニラ市内における第二次世界大戦の瓦礫を除去することから始まりまし

た。そして、この運動に参加したマニラJCCのメンバーから、政界や財界などで活躍する著名人が沢山生まれました。マニラJCCの取り組みは、国への運動へと拡がりを見せ、フィリピンJCCが組織されると共に、JCIの理念をアジア全域へと発信していく

Q: マニラJCCや他国のJCCとの交流を通じて感じたことは何ですか。寺嶋副委員長:

活動の内容や組織の大きさや成り立ちは違いますが、皆さん本当にJCCを楽しんで活動に参加されていて、とにかくJCCが大好き!!という印象を受けました。時間の許す限りJCC活動に取り組んでいる人が、他国にもたくさんいることを知り驚きました。また、メンバー同士が家族のような関係で信頼し合い、助け合っているのだという印象を受け、私も名古屋青年会議所メンバーとそういった関係性が築けるように取り組んでいきたいと思いました。

⑥ まとめ

戦後、大きく復興を遂げた日本ですが、その道程には青年会議所にしかできない、政治を超えた青年たちの友情と運動が関わっていました。マニラの仲間が感じたように、日本人の真剣さや、果敢に運動に取り組む心持ちは、賀詞交歓会などの行事を通して垣間見ることが出来ます。その日本人らしい気質や、モンテルパ収容所への慰問に代表される日本人の心の優しさは、日本や地域をこまめに豊かにしてきた重要なファクターです。通信技術の発達やインフラの整備によって、世界がポータラビリティ化していく中、名古屋のまちをさらに国際化していくことが求められています。

名古屋青年会議所は、創始から世界に目を向けた運動をしてきましたが、今後も、国際感覚を持ち、視野を広げながら社会の問題を一つひとつ解決していかなければなりません。また、アジア諸国にJCC運動を広げ、他国の支援にも積極的に携わっているマニラJCCのように、名古屋青年会議所の運動も、自らのまちを対象とするのみならず、日本全国、そしてアジアから世界へと広げていくことが、求められているのではないのでしょうか。



対談

大和直樹理事長、 NINA NAMOCO マニラJC理事長 と語り合う In Manila



本年度、名古屋青年会議所が力を入れている活動の一つである「民間外交」の強化を図るべく、まだ寒さが残る3月末、大和直樹理事長をはじめとする名古屋青年会議所正副団と、グローバルネットワーク推進委員会の林宏和委員長と委員会メンバーが、名古屋から約3,000キロ離れたフィリピンの首都マニラに向かいました。姉妹JC締結から38年が経過した今、これからのマニラJCと名古屋JCの展望について、両理事長が対談された内容をお伝えします。

大和理事長

本日は、NAMOCO理事長にお会いできて、こうしてお話をさせていただけることをとても嬉しく思います。このように貴重な時間を共有させていただいていること、そして多くのアクティブなJC・マニラのメンバーにお会いできたことに、心から感謝いたします。

今回の訪問では、アジアのJC、そして世界のJCをリードするマニラJCの活動について、我々名古屋青年会議所のメンバーにお伝えいただきたいと思っております。私たち名古屋青年会議所は、より国際的な活動を行っていかうと考えており、今回は姉妹締結をさせていただいているマニラJCを訪問させていただきました。ここ数か月の間に、マニラJCの皆様も名古屋を訪問して下さいましたが、まずNAMOCO理事長から見た

名古屋、そして名古屋人のイメージをお聞かせいただけますか。

NINA NAMOCO理事長

私たちは、日本人の気質や文化を心から尊敬しています。先日、名古屋の賀詞交歓会へ参加をさせていただいたマニラJCのメンバーからも、名古屋JCの賀詞交歓会の肅々とした雰囲気、そして式典に向けた心持ちや運営の仕方は素晴らしい、たくさん刺激を受けたと聞いております。そして、名古屋JCの皆様にも心からのおもてなしをいただいたことに対しても、理事長としてとても有り難く思っております。

日本人のイメージは誠実。そこに尽き、尊敬をしています。私たちは東京JCとも姉妹締結していますが、今年は特に名古屋JCの皆様が、精力的に我々との友情を深めようとしていただいていることを嬉しく感じています。名古屋JCと姉妹締結をさせていただいてから今まで、38年間ほとんどメンバー同士の行き来はなかったのですが、今年は互いの国のメンバーが行き交う機会が増えました。このように、実際にそれぞれの活動や国の様子を知ることが、お互いが協力をしていく中でもとても重要なことだと思っております。私たちが日本の、そして名古屋の活動をj知ること、自らの活動の参考にさせていただきたいと思っております。伝統的で文化や歴史が豊かなまちである名古屋が、さらにまちを洗練しようとし、リニア新幹線や名古屋駅前の開発に取り組みされているとのことですので、これからの発展が楽しみです。

大和理事長

このように姉妹JCの皆様が名古屋を訪れていますが、昔からの友人のように感じています。私だけでなく、メンバーたちもそのように感じることもとても幸せに思います。

大和理事長

それがJCの良いところ!!言葉や習慣が違っても、同じ志を持つ者同士、すぐに仲良くなれます!!私も温かく迎え入れていただき、懐かしい友人に会っている気持ちです。最後となりますが、今後の日本とマニラとの関係性について、考えをお聞かせ下さい。

NAMOCO理事長

先日、両国首脳間の会談がありました。外交や企業間のつながりも強めていきたいと考えています。そして、観光で日本を訪れるフィリピン人が最近増えているのですが、彼らは日本の経験とホスピタリティに感動をjしているそうです。

大和理事長

多くのフィリピンの人たちが、名古屋に暮らしています。とても身近に感じていますし、今後、さらにビジネス的にもつながりを強め、互いの国が発展していけるように進むと良いですね。

NAMOCO理事長

メンバー間でもビジネスを楽しむことができた幸いです。

大和理事長

今後お互いの手を携えて歩んでいきましょう!今回の心からの歓迎と、貴重なお話をありがとうございました。
NAMOCO理事長
ありがとうございます。

て下さるようになり、私自身とても嬉しく思っております。

日本人の中でも特に名古屋人は、閉鎖的な特性を有していると言われていますが、これは裏を返せば一度心を通わせると相手を大切に思う関係を構築し、とても心のつながりを大切にする地域性が現れていることを指しているのだと思います。今後、マニラJCとの関係を強化し、より一層の協力関係を構築できるよう、つながりを確かなものにさせていただきます。

NAMOCO理事長

是非、そのように手を取り合っていきたいと思います!

大和理事長

名古屋JCは、先程お話しさせていただきましたように、国際的な活動を推進していくことを考えております。名古屋は、ものづくり産業で発展した地域ですので、このものづくり産業を生かした国際貢献ができないかと思っております。名古屋を外から見られる立場から、どのような事業の実施が望ましいかと考えられますか。

NAMOCO理事長

現在、マニラJCでは、100以上のプロジェクトを行っています。様々なプロジェクトの中には、環境に関することや教育・スポーツ・障害児、そして植物プラントをつくっているプロジェクトもあります。私はダイバーであり、海が好きなので、年々減少しているサンゴ礁を人工的につくるプロジェクトも行っています。

ものづくりに関する事業であれば、日本はともて災害が多い国なので、災害に関する事業が良いのではないかと思います。私たちは地震

や水害等々の災害に関するシミュレーションを行い、どのように救助するか等の訓練は行っています。日本に比べて災害の事例が少なく、日々模索をしています。名古屋を含む日本には、災害に関する様々な対策技術があると伺っていますので、その技術を見たり触れたりすることで、私たちも学びたいと思えます。

大和理事長

確かに、日本は多くの災害を経験していますので、その経験を活かした防災策を練っていただきたいと思っております。ここ数年、名古屋JCの中に防災に重点を置いた委員会をつくり、市民に対して災害に備えることの重要性を発信してきましたが、これを継続するだけでなく、世界に向けてその重要性や技術について発信していくことも大切ですね。

NAMOCO理事長

今、100以上の様々なプロジェクトを行っております。お話がありましたが、どのような市民の方々にまきこんでいらっしゃるのでしょうか。

NAMOCO理事長

地域のコミュニティや政府系組織・民間事業団体、大きな会社と関係性をつくりながら進めています。また、我々マニラJCは子供たちのために、「シティー・オブ・ドリームス」という野球チームをつくり、特別事業を行っています。また、「スモーカー・マウンテン・プロジェクト」(貧困の連鎖に対する取り組み)もあります。このプロジェクトは立ち上げから7年が経過したので、さらに良くなるようにしていきます。

大和理事長

名古屋青年会議所は、マニラJCの皆様をはじめとする姉妹JCの皆様をお招きして、

交流事業を今年開催したいと考えておりますが、そこで期待することは何かありますか。
NAMOCO理事長
交流事業に参加される国々に対して、社会問題を提起するきっかけづくりになれば良いと思っております。交流事業に参加される国の中で、どのような問題が起こっているのかを調べ、事前研修での資料の内容を変えていこうと考えています。例えば、香港では、若者の自殺率の上昇が挙げられます。若者が命を投げ捨ててしまうということは、国として大きな問題です。私たちは、自殺を望んでしまう若者に対してストレス軽減の仕方を伝え、彼らが個人分析を通して自己肯定能力を高めることができるようにしたいと思っております。

大和理事長

私も、しっかりと問題提起できるように、そして姉妹JCの方々が住まう国の現状についてしっかりと調べていきたいと思います。そして、私たちに何ができるのかを考え、提案できるように準備を進めていきます。

大和理事長

話しは変わりますが、リミットレスアジアに参加した名古屋のメンバーをご覧になって、日本人の印象はいかがでしたか。
NAMOCO理事長

参加された方々がとても楽しそうにされていたので、とても友好的な印象を受けました。そして、真摯に取り組む姿に感銘を受けました。日本人の素晴らしい姿ですね。今回、名古屋JCの皆様がリミットレスアジアの参加をきっかけにマニラを訪れ、友情を育むことができたことがとても嬉しいです。現に、私とナオキ(大和直樹理事長)は、まだ数時間しか同じ時間を過ごし

言葉や習慣が違っても、同じ志を持つ者同士、すぐに仲良くなれます!!

名古屋青年会議所の勇者たち

名古屋青年会議所では、月に1回の例会を開催しています。この例会(フォーラム)で、名古屋のまちの課題に対して、解決策を提示するなど、まちの人たちがまちのために考えるべきことを発信するのが、名古屋青年会議所の取り組みです。名古屋青年会議所は、21歳から40歳までの若き青年により組織されています。その若さ故に、世の中の問題に柔軟な発想で取り組み、果敢に挑戦することができるのです。そして、名古屋青年会議所は、単年度制を取り入れていません。会員は誰もが1年の任期で、常に新しい組織の中で、新たな立場に立って、この組織の中での役割を果たします。卒業制度・単年度制からなる組織である名古屋青年会議所の会員が、日々、何を想い、感じて、まちのため、ひとのために活動するのか、今回は、2月例会「爆発する人間力を確立する例会」を設営した、春名委員長が率いる、爆発する人間力確立委員会のみなさまにお話を伺いました。



【例会開始前インタビュー】

春名委員長・爆発する人間力確立委員会 副委員長
① 例会設営において、苦労した点はありませんか。
講師と会場の選定が大変でした。まず多忙な講師の日程を調整するのが大変でした。会場も候補がいっぱいありましたが、日程を決める時点で、空きのある会場も限られてきました。能楽堂は、呼ぶ講師や内容にもあっていますが、入れる人数が限られてくるのが問題点でした。サテライト会場などの設営などでフォローしています。今年最初の例会であり、爆発する人間力というテーマのため、著名人を呼ぶ必要があるというプレッシャーがありました。40名以上の講師をリストアップし、20名以上に問い合わせました。例えば、松岡修造氏はテーマに沿っていると思いついたのですが、事務所からスポンサー企業の依頼しか受けないとの回答がきたため、実現しませんでした。

爆発する人間力というテーマをどう伝えるかという企画面での苦労も多かった。2月例会という、市民向けの今年最初の例会なので、準備するための期間が短いのも大変でした。参加動員という意味では、エンターテイメント性が高く反響が良かったため助かりました。特に講師のメルマガ・サイトなどの宣伝効果が高かったです。田嶋寺商店街は、常に名古屋青年会議所の活動に協力的だったため、快くチラシを設置していただきました。② 今回の例会で、工夫した点についてお聞かせ下さい。
講師の選定では、「人間力」に対して、学術的な考えではなく、敢えて、客観的に人間を捉えるということで、デーモン閣下氏に悪魔という視点から語っていただきました。人間力というのは、人それぞれが持つ個性であり、

その強烈な個性を發揮し、その道を極め、評価されている方が講師として相応しいと考えました。また、会場にきた方に参加していただくことにも拘りました。会場にきた方が座って聞いているだけではなく、きて下さったみなさまに、参加していることを感じて欲しいと思いました。ただ、能楽堂が630人の収容数ですが、600人以上の方に参加していただくのは、規模的に難しいです。舞台にあがっていただくか、手をあげて質問していただくわけにもいきません。そこで、Circiaというシステムを使用することにしました。Circiaは、第67年度の名古屋青年会議所の取り組みとして、名古屋青年会議所としては初の新たな試みです。今年最初の対外例会ということで、3月以降にもつながっていくことを願っています。

③ 委員会に参加する委員の様子はどうですか。
2月例会の担当なので、委員会の委員が所属する前の早い段階で議案(企画書)を作成し始めました。そのため、委員会のスタートアップである、第1回予定者委員会(11月開催)から委員会委員の多くの方と議論することができ、委員会のまとまりができました。2月例会のPR活動で各委員会をまわるなどしましたが、毎回10人以上集まって、多い日は25人でPR活動することができました。お互いに顔を合わせる機会が増えたことで、委員会全体のまきこみはうまくいきました。こういった委員会設営の中で、チーム力を感じることもできました。1人の力では何ともありません。一人ひとりがそれぞれの役割を全うしたことで、例会というひとつの形にすることができました。④ 家族や仕事への影響はありましたか。
例会当日に家族がきてくれます。例会を通して、青年会議所で普段やっていないことを伝えることができます。家族会などのイベントに連れてきたことは今までありませんが、

【例会後インタビュー】

JICを始める前と始めてから、ご自身の一番の変化は何ですか。
南副委員長：自分のためではなく、人のために行動できるようにになりました。高木副委員長：何かを作り上げて成し遂げるのに、周りの人を巻き込んで、チームとして力を合わせていくことの重要性を知りました。後藤副委員長：時間にゆとりがなくなりましたが、逆に調整能力が身につきました。委員に電話することも最初はめんどくさいとは思っていましたが、今では、話すネタが無いからいつも探すようになっていきます。受け入れてくれるという感じがあるとうれしさが倍増です。相羽副委員長：相談できる友人が格段に増えました。

例会・事業を通して、楽しかったこと、苦しかったことを具体的に教えてください。
南副委員長：楽しかったことは、みんなで1から何かを作っていく、それを形にしていけることの楽しさを学びました。苦しかったことは、スタッフ会議が毎日あったことです。高木副委員長：作り上げていくまでに、講師・会場・議案作成と様々な困難に苦しみましたが、委員会全員で成し遂げた時の達成感に替え難い経験でした。後藤副委員長：JICに入って初めて副委員長として設営する側となって、今まで設営していた方から指示で動くだけだったと自覚しました。やりがいもありましたが、時間を本当に割いて活動することによって少しも来てくれる委員のありがたさにも気づきました。相羽副委員長：議案作成段階で、講師や会場、内容が幾度となく変わったことは大変でしたが、委員会の仲間と特に当日は一体感を持って取り組めたことが喜びです。

今後、例会・事業を設営するJAYCEEにアドバイスをお願いします。
南副委員長：基本的に、スタッフは常に全員参

対外・市民に向けて伝えることを家族にも伝えることができる良い機会になります。仕事では、近々、社員旅行を予定していますが、設営する中で得た経験を活かしたいと思っています。

⑤ 例会を通して、市民・会員に何をもち帰って欲しいですか。
まさにテーマである爆発する人間力を確立していただくことです。人間力という言葉自体は耳にすることが増えていますが、改めて、私たちが人間力を定義すると、個性の先にある、誰にでもある能力であり、その能力を伸ばすことができるのだということを感じていただきたいです。そして、今年の名古屋青年会議所はちょっと違つぞ。と感じていただきたいです。

⑥ 春名委員長にとって、新たな価値観とは何ですか。
誰もが志を持って、人間力を伸ばすことができることです。また、人間力大賞の受賞者の方にもプレゼンターとしてお招きしています。志を持って活動する方の話を聞くことで、参加者に共感を持っていただき、社会に対して、何ができるかを考える機会になればと思います。

⑦ 最後に、2月例会の見所はどこですか。
全てに想いがありますが、設営する委員会としては特にエンディングに力が入っています。例会の中で、講師を通して伝えるセッションもありますが、エンディングは、その内容を集約してこの例会で最も伝えたい想いを発信する場面です。例会の新たな魅力を発信したいと考えています。



加が理想。全員の意見を反映させて、また委員の意見も取り入れ、実際に当日を迎えると、全員で創り上げたという達成感を全員で味わうことができるかと。とにかくできるだけ出席すること。それが大事かと思っています。高木副委員長：成せば成ります。辛いこともたくさんありますが、諦めず最後まで取り組めばその先に絶対に学びや達成感があります。頑張ってください。相羽副委員長：議案は、審議可決されてからが本番です。本番の動きをシュミレーションし、課題の抽出と潰し込みを急いで下さい。委員会や懇親会で委員とコミュニケーションを取り、素晴らしい例会を創り上げることに賛同を得て、委員会全体・総力でもって当日に臨んで下さい。後藤副委員長：猫の手も借りるほど忙しいとは思いません。一人でも多くの委員に来ていただくことが重要だと思います。そのためには普段からの声掛け、委員一人ひとりの気持ちや理解し根気よく対話していくことが求められます。

あなたにとって、JICとは何ですか。
南副委員長：自分を鍛える道場です。仕事のやり方や、人とのコミュニケーションのとり方など、生きていく上で必要なことは全てここで学べるような気がします。高木副委員長：学びの場であり、出合いの場だと思います。後藤副委員長：自分を試す場であり、非日常の中で自分自身が気づいていない自分を覚醒させる可能性のある場と考えています。相羽副委員長：社会における自己のポジションニング確認の場です。

今の委員会・仲間一言、お伝え下さい。
南副委員長：参加していただくことが、こんなにうれしいことはありません。折角、何かの縁でつながったのですから、一人でも多くの方々と、事業として例会などを作っていきたいと思っています。高木副委員長：2月例会を皆さんと作り上げることができたことは、僕の人生で最高の出来事

でした。ありがとうございました。後藤副委員長：2月例会をやりきれたのも委員長、スタッフの力があってからこそです。相羽副委員長：皆さんそれぞれに得意分野が有り、役割があり、居なくてはならない存在です。縁あって集った仲間たち、存分に楽しみましょう！今後、JICで、どのようなことをしていきたいですか。
南副委員長：副委員長の仕事をさせていたただいておりますので、また委員と違った視点で、いろんなことにチャレンジしていきたいと思っています。高木副委員長：新たな出会いを求めていきたいです。後藤副委員長：次回の事業担当がありますので、まずはそこに集中します。与えられた場所では全力投球していきたいです。相羽副委員長：JICでしかできない活動を新しい仲間と行っていきます。

JIC活動をする中で、仕事・家庭などへの影響はありましたか。
南副委員長：正直、あります。仕事を抜けることも多数ありますし、その補填が自分だけの仕事なら良いですが、相手がいる仕事となると、誰かにお願いしないといけないかつたり、自分の都合で顧客に変更してもらったりでうまくいきません。ただ、そこで自分の課題が見えてきたりして、マイナスポイントばかりではありませんので、前を向いて活動していきます。高木副委員長：良い意味でも悪い意味でも、大いにあります。兎に角、前向きに進もうと思います。後藤副委員長：時間の優先順位がどうしてもJICに行きがちですので、家庭は理解を示してくれたいです。仕事でどうしても気になる部分までやり切れない時が多くなっています。仕事上の番頭のような社員を育成し、もつと自分自身の時間を作らなければいけないと感じています。相羽副委員長：仕事では、お手本になる仲間や相談できる仲間が増え、視野が広がりました。家庭に関しては、充実した様子を家族が見守ってくれており、休日時の懇親も深化しました。

2月例会というのは、単年度制を取り入れていた名古屋青年会議所が、その年に、市民に向けて最初に取り組む事業です。そのため、2月例会を設営する人たちの想いや、伝えるべきことが明確に浮き上がっていました。



【まとめ】

2月例会というものは、単年度制を取り入れていた名古屋青年会議所が、その年に、市民に向けて最初に取り組む事業です。そのため、2月例会を設営する人たちの想いや、伝えるべきことが明確に浮き上がっていました。設営する委員は、新しいことに挑戦しようとする気概に満ちています。期待と不安の入り混じった中で、1つの委員会として、まとまりを持って取り組む様子が伝わってきました。そして、例会設営後は、誰もがみんなで作り上げた例会として、人とのつながりを強調していました。名古屋青年会議所が、目的を共有することで、ゼロから事業を作り上げ、自分たちの運動の最大限に努めている様子が伝わってきました。今回の取材を通して、若き故に果敢に挑戦する委員の姿と、僅かな時間で、多くの友情を育むことが出来る団体として、名古屋青年会議所の役割というのを感じることができました。



特集・わんぱく相撲

第34回目を迎える「わんぱく相撲名古屋大会」は、昨年に引き続き名古屋市の後援を受けて、「第2回市長杯」として開催することになりましたが、今年はさらに16区で行われる予選大会に「区長賞」を冠することとなり、より地域に密着した形でのわんぱく相撲の運営を目指しています。また、決勝大会は、本願寺名古屋別院（西別院）の境内に本土俵を組んで執り行う予定であり、伝統を重んじる相撲に相応しい大会となるように日々準備を進めています。

さて、この「わんぱく相撲」ですが、そもそもの始まりは1976年に東京青年会議所が実施した「東京・23区の魅力度・第2回国民生活意識調査報告書」に基づき、1977年に社団法人東京青年会議所が、遊び場の少ない東京の子供達にスポーツの機会をより多く与え、心身の鍛錬と健康の増進を目的として、身近に行えるスポーツである相撲を取り上げるという運動を23区全域に展開したことに端を発します。その後、1981年に社団法人東京青年会議所が、財団法人日本相撲協会と協力して「わんぱく相撲の手引き」を作成し、全国の市町村教育委員会並びに各地の青年会議所に無料配布したことで全国への普及運動が進み、現在のようないろんな規模での相撲大会になったのです。近年の全国大会は、日本国内の約200地区（主催青年会議所単位）の小学生が参加する日本最大規模の相撲大会となっており、たくさんの子供たちが決勝大会の行われる両国国技館

を目指して競い合います。各地区の参加者は、全部で約40,000人。まさに、日本の小学生力士の晴れ舞台です。また、第6回東京場所の4年生の部で優勝した花田光司君（後の横綱・貴乃花）をはじめとして、長い歴史の中で生まれたわんぱく相撲出身の力士も多く活躍しており、名実共に国内最高峰の大会となっています。この全国大会の予選大会となる「わんぱく相撲名古屋大会」もまた、子供たちの健やかな成長を後押しすることを目的として開催されてきた、歴史と伝統のある相撲大会です。その歴史と伝統を受け継ぎながら、新たな価値観を兼ね備えたわんぱく相撲名古屋大会において、今年も子供たちによるドラマが数多く繰り広げられることでしょう。そのような、わんぱく相撲の今年の見どころについて、実施を担当する名古屋青年会議所の会員に話を聞かせていただきました。

担当委員長に聞く！ わんぱく相撲名古屋大会

わんぱく相撲運営会議議長
井上剛

「わんぱく相撲に対する想い」
わんぱく相撲には、勝負を通じて育まれる思いやりの心や、諦めずに挑戦を繰り返していける心の強さを育むことで、子供たちの健やかな成長を後押ししようという目的があります。日本古来の伝統的な競技である相撲からは、そのルールや所作から日本人の心である礼節も学ぶことができます。私自身、子供の頃に両親の勧めで空手を習っていたという経験があるのですが、この空手という日本の伝統競技を通じて、礼節や思いやりなど、生きていく上で大切なものを学ばせていただきました。参加する子供たちには、是非、この機会に日本人の精神性を学んで欲しいと考えています。



現代の子供たちはインターネット等の普及により、人と実際に触れ合う機会が減ると共に、感情を表に出すことが少なくなってきています。一方で、毎年開催しているわんぱく相撲名

「今年のわんぱく相撲について」

本年度は、昨年度に引き続き、決勝大会を市長杯とさせていただいております。また、今年度は各16区で行われる地区大会の優勝者にも区長賞を授与することができることになりました。その他にも、決勝大会に進出するチャンスとなる敗者復活戦や、ちゃんこ鍋の提供等、参加していただく子供のみならず、観覧に訪れていただいた方にも楽しんでもらうことができます。今年ならではの内容を設けています。継続事業でもあるわんぱく相撲に今年参加した子供たちが、また来年も参加したいと思ってもらえるよう、「記録にも記憶にも残る」ということをテーマに計画を進めています。

「わんぱく相撲の担当者として感じることを教えてください」
わんぱく相撲は、名古屋大会自体が34年間

「わんぱく相撲を担当する会員の声」

「JICを始める前と後の一番の変化は何ですか？」
時間の使い方は、上手くなったと思います。社業・家庭・JICにかける比重は、人それぞれだと思いますが、私自身は全てにだらだらと時間を費やすのではなく、区切りをつけて取り組めるようになりました。また、JICの三信条を学び、物事の考え方が変わりました。誰かのために何かをすることや、自己成長の重要性に気付くと共に、同じ目的に向かって互いを高め合える仲間ができました。（服部健太委員）

「例会・事業の設営を通して、楽しかったこと、苦しかったことを具体的に教えてください。」
2011年度に、スタッフとして公益社団法人日本青年会議所 第60回 全国会員大会名

古屋大会に参加している子供たちの姿からは、勝負に真剣になって表情を伺うこともできますし、相撲以外に設営させていた

絶え間なく開催されてきた伝統ある事業であることに加え、全国大会が全国で約200の地域の予選大会を経て行われるという、とても大きな大会となってきました。それに伴い、この大会を目指して年間練習に励み臨んで来るとい、モチベーションの高い子供たちも沢山あります。だからこそ、担当者として子供たちの気持ちに配慮するだけでなく、このわんぱく相撲という事業を今までの大会よりも、さらに地域の人々に必要とされる大会にしなければいけない、という使命感を持って取り組んでいます。

「最後に意気込みを教えてください」

スタッフ・委員一同、皆様に安心して参加していただける様に、十分な準備をして当日に臨みますので、一人でも多くの小学生の方々のご参加をお待ちしております。

「あなたにとってJICとは？」

人生道場であり、人と人が切磋琢磨し、まちなため、人のために考え、行動する場所だと考えております。失敗することを恥ずかしいことだと捉えずに、失敗を糧にすることで自己



成長を促していき、その成長を家庭や企業に還元することで、より良い家庭や企業、そして社会が実現されていくのだと思います。（早川千尋委員）